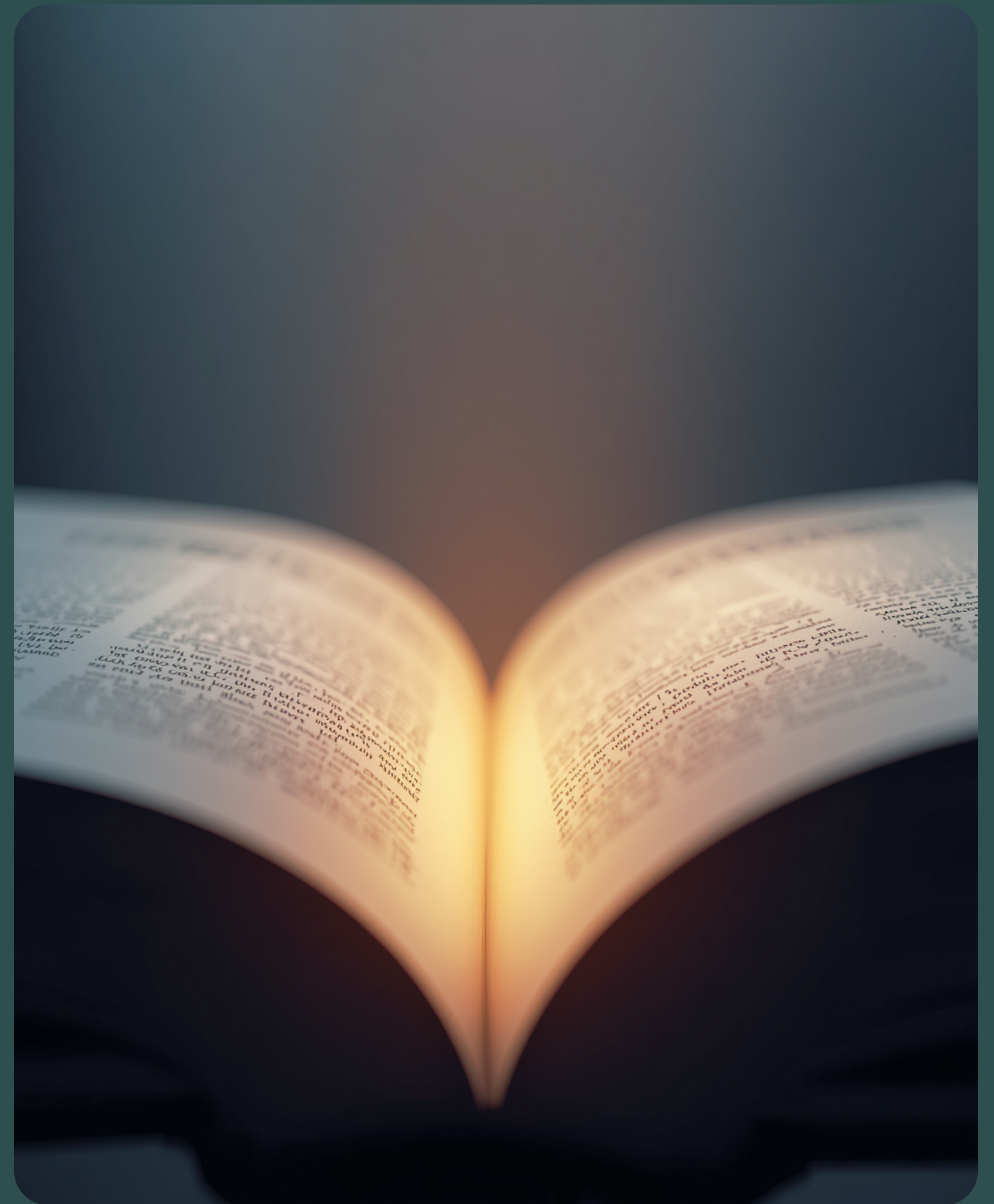


【勉強】

やっぱり勉強したく
なってきた

— 衝撃 —

意味と意志と行動の話
(第2部)



答えは出ただろうか



第1部から第2部へ

「勉強という道具を使って、自分の何を鍛えたい？」第1部の最後に、そう問いを残した。答えが出た人も、まだの人もあると思う。どちらでもいい。第1部は「勉強とは何か」の話だった。第2部は「では、どう動くか」の話をする。

意味は、あとから生まれる

粘土で考えてみよう

まだ形になっていない粘土に、意味はあるだろうか。こねて焼けば茶碗にも花瓶にもなる。粘土そのものに、決まった意味はない。



磨く前に答えは出ない

順番が逆なんだ

「自分は何のためにいるんだろう」と考えても、磨く前には答えが出ない。多くの人はここで、磨くのをやめてしまう。



意味はつくれる

生まれながらに意味を背負っている人はいない。意味は、探すものじゃなくて、つくるものだ。

自分を磨いた分だけ、誰かの役に立てるようになる。「自分はこの役に立っている」と思えることが、人生に意味を与える。だから、自分が生きる意味は自分でつくっていける。



意志の力

フルマラソンで考えてみよう

一年後にフルマラソンを完走するには、何が必要だろう。体力もシューズもコーチも、あったほうがいいけど、なくてもなんとかなる。これがないければ絶対に無理、というものが一つだけある。

願うと決めるは違う

「できたらいいな」には力がない

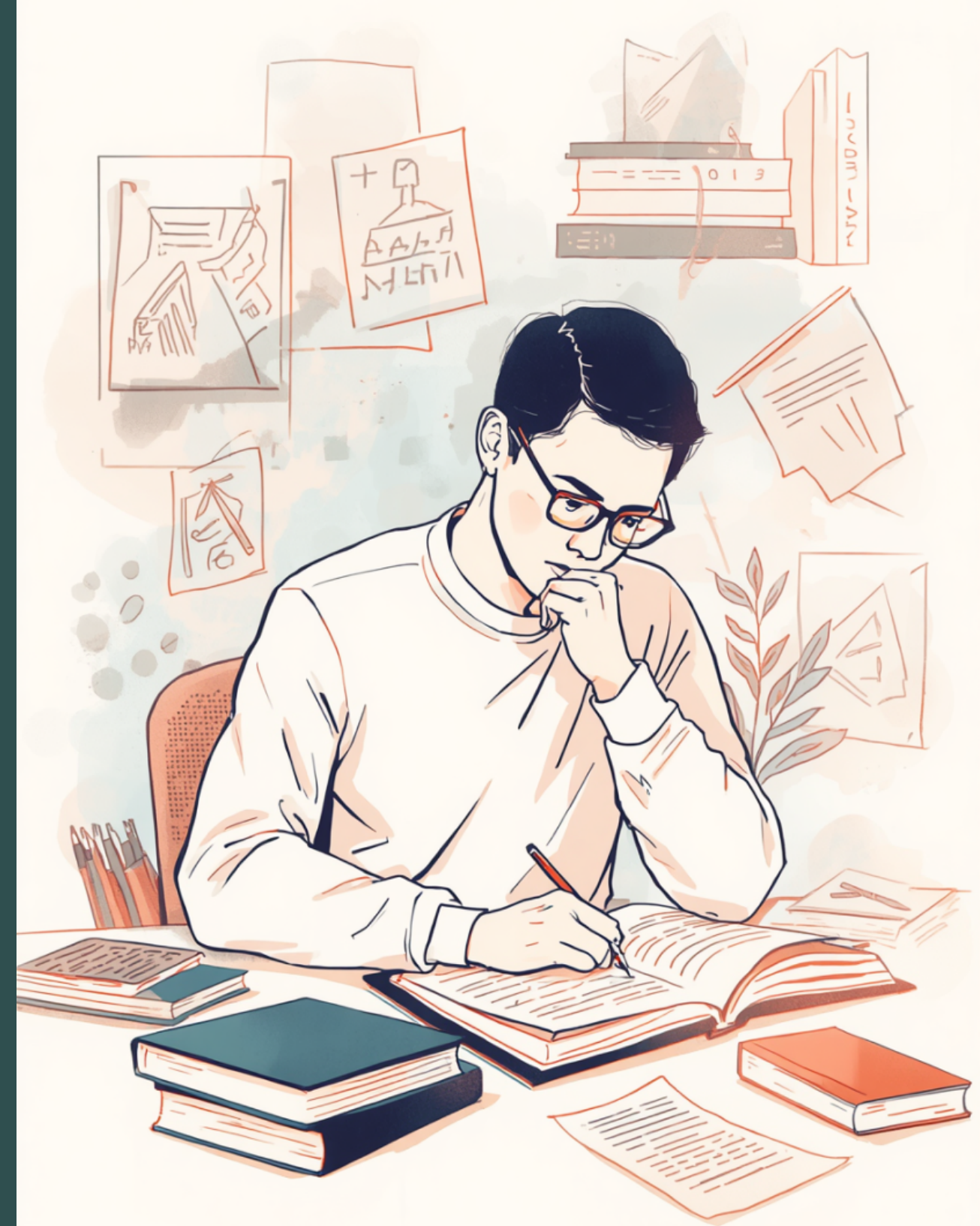
「英語が話せたらいいな」と思っているだけの人は、一生話せないままだ。力を持つのは「話せるようになる」と決めたときだけ。



目標の理由

目標を口にする「それに何の意味があるの」と聞かれることがある。でも、答えられなくていい。立派な動機なんて必要ない。「あの学校に行きたい」だけで十分だ。

大事なのは目標の立派さじゃなくて、そこに向かう途中で自分が磨かれることだ。目標は、自分を磨くための口実だと思っていい。



意志は使うもの

「自分は意志が弱いから」と思っているなら、それも思い込みだ。意志の強い人と弱い人が、最初から別々にいるわけじゃない。

意志は持って生まれるものじゃなくて、使うものだ。今この瞬間から、誰でも使える。毎日自分に「絶対にやる」と言い聞かせる。それだけで変わる。





食べる

おなかが空くから食べる。誰にも言われていない。

歯をみがく

やらないと気持ち悪いから、もう考えずにやっている。

ゲームをする

楽しいからやる。時間を忘れることもある。

寝る

眠いから寝る。これも誰かに言われてじゃない。

勉強する

これだけはどうかろう。君はどちらに入れている？

昨日の二十四時間を思い出して

やらなきやの正体

人は無意識に、一日を二つに振り分けている。「やりたいこと」と「やらなきやいけないこと」だ。

やりたいことは、喜びや楽しさを感じることに。やりたくないことは、不安や退屈や苦痛を感じることに。内容ではなく、感じ方で決まっている。だから、感じ方が変われば、入る場所も変わる。



不安では続かない

多くの大人は、一日の大半を「やらなきゃ」で過ごしている。その原動力は、将来への不安だ。休んだら収入が減る。遅刻したら信用を失う。

不安に追い立てられて動く人生は、いつか燃え尽きる。入試を越えた途端に「もう勉強しなくていい」となるのも、まったく同じ構造だ。



想像の限界



梅干しで考えてみよう

梅干しを口に入れるところを想像してほしい。何も食べていないのに、口の中がすっぱくなったはずだ。想像は、それだけ身体を動かす力を持っている。

でも、想像だけでは、クエン酸もミネラルも摂取されない。実際に口に入れなければ、何も手に入らない。

必要なのは行動だ

だから、合格したあとの一日を細かく想像してほしい。何時に起きて、何を着て、どんな道を通っているか。映像になるまで描けると、同じ勉強が「やりたいこと」側に移る。

そして、手を動かす。痩せる方法を知らない人はいない。食べる量を減らして、体を動かす。それでも痩せないのは、方法を知らないからじゃない。成功するために必要なのは、方法ではなく行動だ。





君は、いつから 始める？

大きな決意じゃなくていい。今日、何を一つやるかだけ決めてほしい。

もう一つ、合格したあとの理想の一日も書いてほしい。
書いたものは、見えるところに貼っておくといい。

－ 第2部 参考文献：喜多川泰『手紙屋 蛍雪篇』